会記・Proceedings

魚類学雑誌
54(2): 251-254

2008年度年会のお知らせ

2008年度年会の予定をお知らせします．詳細は2008年5月に出版される魚類学雑誌55巻1号に掲載します．

期　日：2008年9月20日（土）-9月23日（火）
　　20日　編集委員会・評議員会
　　21-23日　研究発表会・シンポジウム
会　場：愛媛大学共通教育棟
　　〒790-8577　松山市文京町3番

シンポジウム・セッションの申し込みについて

2008年度年会でシンポジウムまたはセッションを計画されている会員は下記の要領で申し込み書類を作成し，電子メールまたは郵便で事務局までお送りください．会場および日時の制約上多数の申し込みがある場合には調整を計りますので，あらかじめご了承下さるようお願いします．セッションの主旨については魚類学雑誌45巻2号の会記を参照してください．

申 込 先：〒852-8521　長崎市文教町1-14
　　長崎大学大学院生産科学研究科
　　日本魚類学会庶務幹事　竹垣　毅
　　TEL: 095-819-2819　FAX: 095-819-2799
　　e-mail: takegaki@nagasaki-u.ac.jp
必要事項：(1) 和文標題，(2) 英文標題，(3) 企画者氏名，(4) 趣旨説明（1000字以内），(5) 演者と演題，(6) 連絡先住所・氏名（電話，ファックスおよびe-mail）．なお，標題や演者・演題は暫定案でも結構ですが，内容が明瞭にわかるようにして下さい．ただし，実施時の内容と大きく異なる暫定案を作成することは避けて下さい．
申込締切：2008年1月31日

2007年度第2回幹事会

日　時：2007年8月13日13:00-17:40
場　所：国際文献印刷社江戸川橋会議室
出席者：（幹事会）松浦・西田・奥田・甲斐・竹垣・波戸岡，北川・木村（編集委員長）
（国際文献印刷社）笠井・根目澤・植野・金子

1. 会務報告　会員数推移について説明があり，国内会員の増加が報告された．会誌の超過ページ代滞納者について，特に国外会員の滞納者が多いとの報告があり，滞納者に催促の連絡を入れることとなった．年会の準備状況について説明があり，発表申込に付随したトラブルなど年会終了後に反省会を開くこととなった．その他，現在名簿調査を実施中であること，学会後援による神奈川ウォーターネットワークシンポジウムが5月12日に神奈川県生命の星・地球博物館で開催されたことなどの報告があった．
2. 今年度の編集状況について説明があった．新編集委員として福井　篤氏，本村浩之氏，高橋大輔氏が加わり，河野博氏の退任が報告された．和文誌会記の内，会計試算表は学会ホームページに移行し，各委員会議事録は従来通り会記に掲載することとなった．外国産種の和名表記について，標準和名検討委員会とも協議し，使用の是非を検討することとした．予算削減のため，英文誌の発行部数を減らすこと，会員への会誌配布希望に関するアンケートを実施することなどが提案された．
3. 2006年度会計監査結果，2007年度上半期会計，2008年度の予算案について報告された．会計規則の新設が提案され，今年度の評議員会・総会で諮ることとなった．科研費に依存しない学会運営に向けた財務の見直しを目的として，財務検討ワーキンググループの設置が検討され，歴代会計幹事メンバーから数名で組織される案が提出された．
4. 選挙結果について報告があった．
・2008-2009年度会長選挙（有効票31）：後藤　晃氏（6票）．次点　中坊徹次氏（5票）
・2008-2009年度学会賞選考委員選挙（有効票31：定数5）：佐野光彦氏（9票），細谷和海氏（7票），宮　正樹氏（7票），山岡耕作氏（7票），南　卓志氏（6票），宗原弘幸氏（6票）
＊同票数獲得で定数を上回ったため，南氏と宗原氏を被選挙人として決選投票を行うこととなった．
・2008-2011年度評議員選挙
北海道地区（有効票32票：定数4）
　矢部　衛氏（19票），仲谷一宏氏（18票），後藤　晃氏（16票），帰山雅秀氏（11票）
東北地区（有効票19票；定数3）
　南　卓志氏（11票），佐原雄二氏（6票），斉藤憲治氏（5票）
関東地区（有効票64票：定数15）
　松浦啓一氏（37票），瀬能　宏氏（34票），林　公義氏（33票），西田　睦氏（31票），篠原現人氏（28票），沖山宗雄氏（27票），宮　正樹氏（25票），須之部友基氏（21票），塚本勝巳氏（20票），坂本一男氏（19票），佐野光彦氏（19票），井田　斉氏（16票），多紀保彦氏（16票），猿渡敏郎氏（15票），中村智幸氏（14票）
中部地区（有効票45票，無効票3：定数11）
　井口恵一朗氏（25票），木村清志氏（24票），片野　修氏（23票），赤川　泉氏（19票），髙田啓介氏（18票），桑村哲生氏（18票），白井　滋氏（15票），向井貴彦氏（13票），小野里　担氏（12票），森　誠一氏（12票），古屋康則氏（11票），河村功一氏（11票）

近畿地区（有効票42票：定数9）
細谷和海氏（22票），中坊徹次氏（17票），波戸岡清峰氏（17票），渡辺勝敏氏（16票），幸田正典氏（13票），岩田明久氏（12票），田中　克氏（12票），中井克樹氏（10票），川那部浩哉氏（9票），甲斐嘉晃氏（9票）
中国・四国地区（有効票47票：定数5）
山岡耕作氏（19票），柳沢康信氏（18票），木下　泉氏（18票），佐々木邦夫氏（13票），水野信彦氏（12票），酒井治己氏（12票）
九州・沖縄地区（有効票31票：定数6）
立原一憲氏（24票），吉野哲夫氏（18票），岩槻幸雄氏（17票），望岡典隆氏（11票），四宮明彦氏（10票），中園明信氏（7票），山口敦子氏（7票）

5. 事務局（国際文献印刷社）と学会運営について議論した．会員ホームページの拡充，入会申込・名簿情報のオンライン化，電子メールによる会員通信などの提案が事務局からなされ，システム概要や経費見積りに基づいて検討を開始することとなった．学会活動に関するマスコミからの問い合わせは庶務幹事に転送して対応することが確認された．会誌の送付方法を工夫することで送付コストの削減が見込めるとの意見が出された．学会の法人化に伴うメリット・デメリットの説明があり，現時点で法人化の必要性はないが，長期的な視野で検討することが確認された．
6. 差別的標準和名の改名手続きに関する問題点を再度議論した．昨年度第1回評議員会において，議論の継続方法について一致した見解が得られていなかったこと，詳細な議事録を残していなかったことなどの問題点が指摘された．また，今後の評議員会MLの運用方法について検討した上で，幹事会の見解を評議員会へ表明することとなった．
7. 学会賞選考委員会が5月10日に国立科学博物館で行われ，奨励賞として山崎裕治氏（富山大学），論文賞として Li et al. (2006) *Ichthyological Research* 53: 148–159 と Nakae and Sasaki (2006) *Ichthyological Research* 53: 233–246 の候補が選考され，評議員会で承認された．「学会賞推薦委員会」設置の是非について，学会賞選考委員会で検討され，設置の必要性がないとの見解が示された．学会賞応募の活性化に向けた議論を行い，告知時期や編集委員会による推薦方法の改善などの提案がなされた．
8. その他　2008年3月3–4日に国立科学博物館本館で開催予定の魚類学会と国立科学博物館による共催シンポジウムの準備状況が報告された．男女共同参画ワーキンググループの活動状況が報告された．

2007年度第3回幹事会

日　時：2007年9月13日13:05–17:30
場　所：京都大学フィールド科学教育研究センター
出席者：松浦・西田・奥田・甲斐・竹垣・波戸岡・北川

1. 会務報告　学会賞選考委員選挙の同数票に伴う決選投票が行われ，南　卓志氏が選出された．2008–2009年度学会賞選考委員は佐野光彦氏，細谷和海氏，宮　正樹氏，山岡耕作氏，南　卓志氏となった．名簿配布の有償化に関するアンケート調査の結果を検討し，次回より希望者へ1部1000円の有償配布を行うことを評議員会に提案することにした．
2. 2008年度予算案として，新たに男女共同参画学協会連絡会の協賛金が組み込まれることを確認した．また名簿有償化に伴う名簿作成積立金の削減案が提出された．会計規則の制定および会則改正の最終案を検討し，評議員会で諮ることとなった．財務検討作業部会が9月6日付けで発足したことが報告された．年会の学生旅費援助に対する検討要請があり，年会時に学生会員を対象とした意識調査を行うこととなった．
3. 学会賞規則および運営細則の改正案について検討し，今年度の評議員会で諮ることとなった．国外会員向けの学会賞告知文案について検討を行った．告知は英文誌の告知欄に掲載することとなった．
4. 今年度の評議員会・総会資料の原案と議事進行の確認を行った．2009年度以降の年会開催場所について協議し，2009年度は東京大学と国立科学博物館の共催（東京都内），2010年度は三重大学（津市）で行う案が採択された．
5. その他　男女共同参画学協会連絡会からアンケートの依頼があり，会員への周知と実施方法について検討した．前回幹事会で事務局より提案のあった学会ホームページの拡充について議論し，入会申込み方法の一部変更と会員向けメール配信の導入について事務局に依頼することとなった．和文誌で広告募集を行うことになった．

2007年度年会

2007年度年会が2007年10月5日（金）–10月8日（月・祝）に北海道大学学術交流会館において開催され，以下の会合があった．

1. 2007年度第2回編集委員会

2007年10月5日（金）12:10–14:40に編集委員16名が出席して2007年度第2回編集委員会が開かれた．

2. 2007年度第1回評議員会

2007年10月5日（金）15:00–17:20に評議員24名（他に委任状15名）が出席して開催された．議長には柳澤康信氏が選出された．議事は以下の通りで，報告及び答申，会則・細則改定案を含む来年度活動方針案を原案通り採択した．(1) 2006–2007年度会務報告，(2) 2006–2007年度編集報告，(3) 2006年度決算報告，同監査報告，および2007年度前期収支報告，(4) 2007年度総会以後および2008年度の活動方針（案），(5) 2008年度収支予算（案），(6) 会則および細則の改正（案），(7) 自然保護委員会からの報告，(8) 標準和名検討委員会からの報告及び魚類の差別的和名の改称に関する答申，(9) 日本魚類学会史委員会からの報告，(10) 電子情報委員会からの報告，(11) 学会賞に関する報告，(12) 国際魚類シンポジウムについて，(13) 日本分類学会連合に関する報告，(14) 自然史学会連合に関する報告，(15) 今後の年会開催予定，(16) その他．今後の年会開催地は2008年松山市（愛媛大学・高知大学），2009年度東京都（東京海洋大学・東京大学・国立科学博物館），2010年度津市（三重大学）

に決定した．

3. 2007年度第1回総会

2007年10月6日（土）16:15–17:35．出席者100名．議長には柳沢康信氏が選出された．議事は以下の通りであった．会則改定案は出席者の3分の2以上の賛成により原案通り採択された．(1) 2006–2007年度会務報告，(2) 2006–2007年度編集報告，(3) 2006年度決算報告，同監査報告，および2007年度前期収支報告，(4) 2007年度総会以後および2008年度の活動方針，(5) 2008年度収支予算，(6) 会則および細則の改正（案），(7) 自然保護委員会からの報告，(8) 標準和名検討委員会からの報告及び魚類の差別的和名の改称に関する答申，(9) 日本魚類学会史委員会からの報告，(10) 電子情報委員会からの報告，(11) 学会賞に関する報告，(12) 国際魚類シンポジウムについて，(13) 日本分類学会連合に関する報告，(14) 自然史学会連合に関する報告，(15) 今後の年会開催予定，(16) その他　男女共同参画作業部会からの協力依頼．

4. 日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演

10月6日（土）17:35–18:00に日本魚類学会賞授賞式および奨励賞受賞講演がおこなわれた．論文賞は下記の2論文が受賞した．

· Xia Li, Prachya Musikasinthorn, and Yoshinori Kumazawa: Molecular phylogenetic analyses of snakeheads (Perciformes: Chanidae) using mitochondrial DNA sequences. Ichthyological Research, 53: 148–159 (2006).

· Masanori Nakae and Kunio Sasaki: Peripheral nervous system of the ocean sunfish *Mola mola* (Tetraodontiformes: Molidae). Ichthyological Research, 53: 233–246 (2006).

奨励賞は山崎裕治氏が受賞し，「ヤツメウナギ類における系統進化と種分化プロセス」のタイトルで受賞講演が行われ約130名が参加した．

5. 旅費補助抽選会

学会賞受賞講演終了後，オークション売上金による旅費援助の抽選が行われ，28名の応募者の中から20名に20,000円ずつが授与された．

6. 2007年度第2回自然保護委員会

10月8日（日）12:30–14:00に自然保護委員会委員および各部会員19名，オブザーバー2名が出席して2007年度第2回自然保護委員会が開かれた．

7. 研究発表会・市民公開講座

口頭発表第1会場・第2会場・ポスター会場に分かれて184題の研究発表が行われた．参加者は開催期間を通じて約328名（内当日参加42名）であった．シンポジウム「タナゴ亜科魚類の繁殖生態；適応的な産卵資源利用とその進化」，「世界の海水・淡水カジカ類における多様性，適応と進化」には，それぞれ30名，108名が参加した．公開市民講座「川の自然生態系と在来魚を守る－知床を含む北海道の現状と将来」には196名が参加した．

8. 懇親会

懇親会は10月6日（土）18:30–20:30に北海道大学福利厚生会館北部食堂で261名の参加者で盛大に開催された．

9. オークション

年会会場では書籍等のオークションが行われ，58,600円の基金を得ることができた．

10. 評議員会・総会抜粋資料

会員数（2007年7月現在）

	国　内	国　外	計
個人会員	1162 (+5)	101 (−3)	1263
名誉会員	4	5	9
団体会員	87	0	87
賛助会員	2	0	2
購　読	65	0	65
寄　贈	5	16	21

（ ）内は2006年7月現在に対する増減

2006–2007年度編集報告

(1) 投稿論文

2006年：117篇（英文誌86篇，和文誌31篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類21；系統2；形態10；行動7；生態15；稚魚16；遺伝10；生理2；その他3

和文誌：分類6；系統0；形態3；分布1；行動0；生態13；稚魚0；遺伝5；生理0；その他3

2007年9月3日現在：94篇（英文誌54篇，和文誌40篇）

投稿論文内訳

英文誌：分類12；系統3；形態2；行動9；生態15；稚魚6；遺伝5；生理2；組織0

和文誌：分類15；系統1；形態1；分布0；行動1；生態4；稚魚0；遺伝3；生理2；その他13

(2) 原稿受付から出版までに要する日数（原著論文）

英文誌（50巻1号から54巻3号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：152日；最長期間：1682日；各号の平均期間：328日（50巻2号）から483日（54巻1号）

和文誌（50巻1号から54巻1号まで）

受付から出版までの日数

最短期間：166日；最長期間：733日；各号の平均期間：316日（50巻1号）から461日（51巻1号）

2007年度年会以降の活動方針

(1) 2008–2009年度会長・副会長

2008–2009年度会長は，西田　睦氏．2007年7月に行われた会長選挙では，次期会長に後藤　晃氏が選出された．副会長としての任期は2008–2009年度，会長としての任期は2010–2011年度．

(2) 2008–2011年度評議員

北海道地区：矢部　衛氏，仲谷一宏氏，後藤　晃氏，帰山雅秀氏．東北地区：南　卓志氏，佐原雄二氏，斉藤憲治氏．関東地区：松浦啓一氏，瀬能　宏氏，林　公義氏，西田　睦氏，

篠原現人氏，沖山宗雄氏，宮　正樹氏，須之部友基氏，塚本勝巳氏，坂本一男氏，佐野光彦氏，井田　齊氏，多紀保彦氏，猿渡敏郎氏，中村智幸氏．中部地区：井口恵一朗氏，木村清志氏，片野　修氏，赤川　泉氏，髙田啓介氏，桑村哲生氏，白井　滋氏，向井貴彦氏，小野里　担氏，森　誠一氏，古屋康則氏，河村功一氏．近畿地区：細谷和海氏，中坊徹次氏，波戸岡清峰氏，渡辺勝敏氏，幸田正典氏，岩田明久氏，田中克氏，中井克樹氏，甲那部浩哉氏，甲斐嘉晃氏．中国・四国地区：山岡耕作氏，柳澤康信氏，木下　泉氏，佐々木邦夫氏，水野信彦氏，酒井治巳氏．九州・沖縄地区：立原一憲氏，吉野哲夫氏，岩槻幸雄氏，望岡典隆氏，四宮明彦氏，中園明信氏，山口敦子氏．

(3) 2008–2009年度学会賞選考委員

佐野光彦氏，細谷和海氏，宮　正樹氏，山岡耕作氏，南卓志氏．

(4) 2008–2009年度庶務幹事，および会計幹事

庶務幹事：竹垣　毅氏，高橋　洋氏，望岡典隆氏．

会計幹事：藪本美孝氏，須田有輔氏．

(5) 2008–2009年度会計監査

須之部友基氏，岡部　久氏．

(6) 男女共同参画作業部会の発足

本会は2007年度より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバとして加入している．男女共同参画に向けた取り組みを始めるため，まず作業部会を発足させた．作業部会メンバーは，赤川泉氏，小早川みどり氏，山崎裕治氏，林　公義氏の4名である．今後，作業部会を中心に現状の把握と委員会設置に向けた取り組みを進める．

(7) 学会ホームページの会員ページ拡充について

学会業務委託先である国際文献印刷社より，会員ページの拡充について提案があり，検討した結果，当面，メールアドレスを持っている会員に同報メールを発信する機能のみを新たに取り入れることにする．

(8) 名簿配布に関するアンケート結果

名簿配布方法について国内個人会員にアンケートを採った結果，次回名簿作成からは希望者に有償（送料込みで1000円）で配布することとなった．

会則・細則の改正について

より明確な会計執行に向けて，従来会則・細則に組み込まれていた会計に関する規則を独立させ，新たに会計規則を制定した．これに伴い，従来の会則・細則から会計に関する部分が削除された．

2007年度第1回日本魚類学会自然保護委員会

日　時：2007年10月6日（土）12:30–14:00
場　所：北海道大学学術交流会館1回第4会議室
出席者：細谷，吉野，瀬能，松浦，加納，鈴木，小早川，後藤，小宮山，向井，鬼倉，杉山，田北，山口，渡辺，淀，中井
オブザーバー：北橋（環境省野生生物課），片野（中央水研）

1. 委員職の位置づけについて

(1) 現状に即した活動を行うため，現委員制を廃止し，部会員を委員とする．

(2) 委員長と副委員長は部会に所属しないこととする．

(3) 要綱の改正案を作成する．

2. 各部会が取り組むべき重点的課題と方向性について

・希少海産魚問題検討部会

(1) 汽水魚の取り扱いについては希少淡水魚問題検討部会とすりあわせを行う．

(2) 各県RDB，IUCN，水産庁データブック，ワシントン条約付属書などから希少海産魚のリスト化を進める．

(3) 有明海や泡瀬干潟など，沿岸の問題については対象地域のリスト化を進める．

・希少淡水魚問題検討部会

(1) 現状の課題（ヒナモロコやイタセンパラなど）を情報収集を含めて進める．

(2) 販売目的の採集や流通に対処するため，条例や保護区等の制定を働きかける．

・外来魚問題検討部会

(1) 現在および将来の課題を整理し，リスト化を進める．

(2) 外来海産魚については外来魚問題検討部会が担当する．

3. 学名が未確定な魚類（絶滅危惧種）への対応について

(1) 研究者の責任として学名の確定に取り組むこととする．

4. 有明海をめぐる状況と公開シンポ講演の出版提案について

(1) 日本魚類学会自然保護委員会編として出版する．

(2) 印税や原稿料の取り扱いについては前例に従う．

5. ブラックバスとブルーギルをめぐる長野県の動向について

(1) 再放流禁止を義務付ける委員会指示の凍結後，対策がとられておらず，コクチバス等が拡散しており，また根強い有効利用の主張もある．

(2) 長野県漁場管理委員会へは先に提出した要望書に沿った働きかけを行っていく．